

絵本の世界へ

おはなし会で使えるブックリスト 3～6 歳児編



山梨県立図書館
YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY

はじめに

当館では、子どもの読書活動の実践に役立つガイドブックを作成しています。

平成26年3月には、図書館や幼稚園、小学校などで読み聞かせをする方に向けて「読み聞かせー実践のコツ&絵本の選び方ー」を、また、平成29年3月には赤ちゃんに読み聞かせやおはなし会をやってみたいと考えている方に向けて「絵本の世界へ おはなし会で使えるブックリスト 0～2歳児編」を作成しました。

今回はこの「絵本の世界へ」の続編で、3歳から6歳児を対象にした読み聞かせやおはなし会のガイドブックです。「0～2歳児編」と同様、読み聞かせの基本、おはなし会の進め方やQ&A、おすすめの絵本、わらべうたなどを紹介します。

読み聞かせやおはなし会を実践して、子どもたちと一緒に絵本の世界を楽しみましょう。

目次

はじめに	1
1 読み聞かせの基本	3
2 幼児と絵本	
(1) 幼児と絵本	7
(2) 幼児への読み聞かせ	9
3 おはなし会	
(1) やってみようおはなし会	11
(2) おはなし会プログラムの例	13
(3) おはなし会Q & A	15
4 おすすめの絵本	17
5 わらべうた	27
6 参考図書	29

1 読み聞かせの基本

★読み聞かせとは

絵本を子どもに見せながら読んで聞かせる「読み聞かせ」は、「耳からの読書」とも言われ、絵本やおはなしの楽しさに出会うことができます。子育てのコミュニケーションツールにもなり、図書館や幼稚園、保育所、学校などで実施されています。

ここでは、集団への読み聞かせの基本について説明します。

★読み聞かせの効果

読み聞かせをしてもらった子どもほど、本好きになると言われています。また、言葉の発達につながり、想像力や心を育てるなどの効果があるとも言われています。



★読み聞かせの手順・方法

- ①読み聞かせを行う対象を把握する
- ②読み聞かせに使う絵本を選ぶ
- ③事前に練習をする
- ④読み聞かせ本番
- ⑤振り返り・記録の作成

絵本の選び方

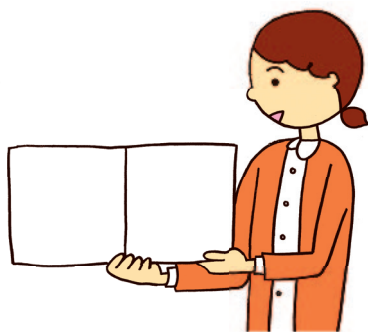
- *対象を把握したら、年齢に合った本を選びます。年齢が異なる子どもがいる場合には、小さい子どもに合わせます。
- *絵が遠くからでもはっきり見え、絵と文のバランスがとれたもの、リズムカルで心地よい言葉の本などを選ぶようにしましょう。
- *長く読み継がれているものや、定番と言われるもの、また、読み聞かせに合う本を紹介したブックリストなどに掲載されているものから、選ぶことをおすすめします。
- *子どもの聞く力には差があるので、一对一の時よりも少しやさしい本を選ぶとよいでしょう。
- *読み手の本への思いは子どもに伝わります。自分が楽しめる本、好きな本を選ぶことが大切です。

事前の準備と練習

- * 本に開きぐせをつけておくと、持ちやすくなり、子どもにも絵がよく見えるようになります。
- * 必ず声に出して読む練習をし、かかる時間も確認しておきます。

読み聞かせの方法

- * 本を持つ時は片手で本の「のど」の下部分をしっかり持ち、本がぐらつかないようにします。
- * ページをめくる時は、絵をじっくり見せ、タイミングや間を考えて、スムーズにめくります。また、手などで絵を隠さないようにしましょう。表紙、見返し、裏表紙などもしっかり見せます。



【絵本の持ち方】

読み聞かせ本番

- * 子どもが床に座っている時は読み手は椅子に座り、子どもが椅子に座っている時は読み手は立って読むとよいでしょう。
- * どの子どもからも本が見えるかを確認し、必要があれば自分の位置をずらしたり、子どもを移動させたりします。
- * 読む時は、ゆっくり、はっきり、心をこめて、一番後ろの子どもにも声を届けるつもりで読みます。また、ページをめくってすぐには読まず、一呼吸おいてから読むようにしましょう。
- * 子どもと一緒に楽しむつもりで読み、余裕が出てきたら子どもの反応を確かめながら読むとよいでしょう。

読み聞かせ終了後

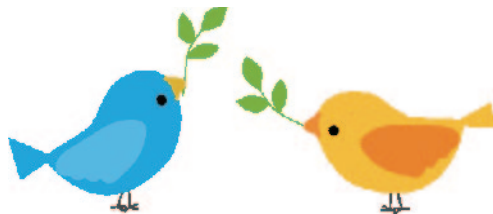
- * 読んだ本やかかった時間、子どもの反応、自分の反省点などを記録しておきます。グループなどで読み手が何人もいる場合は、次に読み聞かせをする時の参考にもなります。
- * 悩んだ時は、読み聞かせグループの先輩に聞いたり、図書館に相談するのも一つの方法です。

2 幼児と絵本

(1) 幼児と絵本

幼児にとって絵本は、心の栄養です。繰り返しの音で言葉を覚え、絵本の世界で人の感情や物事の決まりごとなども理解していきます。大人が注意することは、絵本を教材と考えることです。特に親子間など一対一で読み聞かせを行う場合、何度も同じ絵本を読みたがったり、同じページを好む子もいます。ページを飛ばして読みたがる子もいるかもしれませんが、子どもの気持ちに沿ってリラックスして絵本を読みましょう。

字がわかるようになり自分で読みたがる子、体が大きくなっても膝の上で読んでもらいたがる子など、幼児と言っても千差万別です。大事なことは子どもの「絵本を読みたい」「読んでもらいたい」という思いに、いつでも応えることです。家庭ではすぐに手の届く場所に絵本を置き、子どもが「読んで」と言った時は読んでください。



どの子にとっても親の声は一番心地よい「音」です。親が不機嫌な感情のままに絵本を読むことは控えましょう。用事などがあり何回も繰り返すことができない場合は、



「1回だけね。この後買い物だからね。帰ったらまた読もうね。」というように、何回も読むことが出来ない理由と、いつだったらゆっくり読めるのかを説明すると、子どもは落ち着きます。そして、読むと約束したらそれを守ることでも大切です。ただし、子どもの興味が絵本から離れている時は無理をする必要はないので、また興味を持った時に読みましょう。

幼児に絵本を選ぶ時、図書館を利用してみましょう。図書館にあるたくさんの絵本の中から、子どものお気に入りの1冊を探すことが出来ます。できればその本は購入し、「あなたの絵本」として手渡ししましょう。特別な1冊として絵本が大好きになります。



（２）幼児への読み聞かせ

絵本には、昔から読み継がれてきたものが多くありますが、現在もたくさんの新しい絵本が出版されています。数多くある絵本の中でどんな絵本がいいか迷った時は、定番と呼ばれるロングセラーの本を選びましょう。大人も、子どもの頃に読んだ絵本ならば、愛着があるかもしれません。

絵本を読む時に気をつけたいのは、演じないということです。声色を変えたり大げさな身振り手振りでは、子どもは絵ではなく読んでくれている大人に注目し、お話の内容がわからなくなってしまいます。また、読んでいる途中で読み手の「これは何？」「どうすればいいと思う？」などの問いかけは子どもの心を絵本から遠ざけます。子どもが質問してきた時は簡潔に答えるか、答えとなる絵を指し示しましょう。読み終わった後に感想を言わせたり絵本から教訓を学ばせたりせず、絵本の世界を楽しみましょう。



★年齢ごとの絵本の選び方

- * 3歳～：繰り返しの音や響きを楽しく感じます。色彩がはっきりしたシンプルな絵の方がより楽しめます。
- * 4歳～：物語の内容を理解し、絵本の世界に入り込むことができます。わかりやすい内容の絵本がおすすめです。
- * 5歳～：ナンセンスな内容や不思議な話も理解します。ちょっと怖い内容が好きな子もいます。「そんなのウソだよ」と言いつつ絵本を楽しみます。
- * 6歳～（就学前）：少し長いお話もしっかり聞かことができます。小学校に入る準備として、生活に関わる内容もおすすめです。



3 おはなし会

(1) やってみようおはなし会

★場所、対象を決める

場所は、絵本がよく見え、声が届くようにあまり広すぎず、集中できる環境を整えましょう。子どもたちの読み聞かせの経験や、いつも一緒にいる集団かなど、どんな子どもたちに読み聞かせを行うのかを事前に確認します。人数が多いときは、回数を増やして行くと、少人数で落ち着きます。

★内容（プログラム）を決める

全体の流れは、本の世界にスムーズに入るための導入として手遊びなどを行い、その後、何冊かの本を読み聞かせます。わらべうたを歌い、最後に手遊びなどをして終わります。時間は15分から長くても30分以内を目安にしましょう。昔話と創作絵本、外国の話と日本の話、読む時間が長いものと短いものなど様々な本を選びプログラムを組み立てましょう。わらべうたには、行事や季節感を取り入れるのもよいでしょう。



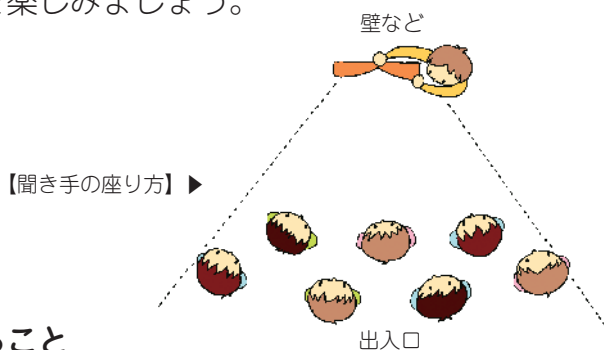
★準備をする

本は事前に声に出して読み、練習します。本番と同じように子どもに本を見せるように持ち、声の大きさやかかる時間などを確認します。

★本番での注意点

会場では、読み手と聞き手の位置を決めます。聞き手は絵本の絵がよく見える位置、なるべく前方に扇形に座ってもらいます。読み手から全員の顔が見えるかどうか確認します。

心をこめて、ゆっくりはっきりと読み、参加者と一緒に絵本の世界を楽しみましょう。



★終了後にすること

反省会をして、よかった点、改善が必要な点などを話し合ひましょう。また、日時、場所、参加人数、読み手、プログラム、反省点は記録しておき、次回のおはなし会に活かしましょう。

(2) おはなし会プログラムの例

プログラム例 1

① 導入

♪ろうそくばっ

親指をろうそくに見立て、心で火を灯しておはなし会を始めます。

② 絵本

『ぞうくんのさんぽ』

なかのひろたか／さく・え なかのまさたか／レタリング 福音館書店 1977年

ぞうくんの背中が、だんだんと重くなるのをイメージして読みます。

③ 絵本

『ティッチ』 パット・ハッチンス／さく・え いいいもこ／やく 福音館書店 1975年

本文に入る前の文章のないページも、丁寧に見せましょう。

④ 絵本

『ふしぎなナイフ』 中村牧江、林健造／さく 福田隆義／え 福音館書店 1997年

読み手の後に続き、子どもたちも声に出して読むと盛り上がります。

⑤ わらべうた

♪ねずみねずみ

最後に脇の下をくすぐると、笑顔になります。

⑥ 終了

♪ろうそくふっ

最初に指に灯したろうそくの火を消して、おはなし会を終了します。

プログラム例 2

① 導入

♪ろうそくばっ

② 絵本

『だいくとおにろく』 松居直／再話 赤羽末吉／画 福音館書店 1967 年

子守歌は、やさしいリズムで歌うように読みます。

③ 絵本

『よかったねネットくん』

レミー・シャーリップ／さく やぎたよしこ／やく 偕成社 1997 年

子どもは、次はどうなるのだろう？と展開を楽しみながら聞いています。

④ わらべうた

♪ちゃちゃつぽ

両手が難しい場合は、まず片手の上下だけでやってみます。

⑤ わらべうた

♪さよならあんころもち

おもちがあるように、見立てて遊ぶのがおもしろいわらべうたです。

⑥ 終了

♪ろうそくふっ



(3) おはなし会Q&A

Q 1 本を読むだけではなく、手遊びを行ったり、わらべうたを歌うのはなぜですか？

- A 毎回決まった手遊びを、導入と終了に行うことで、子どもはおはなし会が始まること、終わることが分かるようになります。決まった形があると、安心して本の世界に入っていくことができます。歌い継がれてきた、わらべうたのリズムや言葉は、子どもにとって心地よく、音感を育て、体を動かして遊びながら社会性を育てます。

Q 2 上手に読むコツはありますか？

- A 練習の時よりも、本番は早口になりがちです。ゆっくり、はっきりと後ろの人に声を届けるように読みます。本はスムーズにめくれるように、事前に開きぐせをつけておきましょう。表紙や裏表紙などもしっかりと見せ、ページをめくる前には1、2、3と心の中で数えると、子どもたちが絵を見る時間がとれます。鏡の前で練習したり、他の人に聞いてもらうとよいでしょう。子どもは読み手の表情も読み取ると言われているので、リラックスして楽しみながら読むことが一番のコツです。

Q 3 絵本の中に歌が出てきます。どうやって読んだらよいですか？

- A 絵本によっては、歌が出てきても楽譜が紹介されていない場合もあります。その際は、物語の流れを活かすように、リズムや節をつけて読んでみましょう。読み手の個性が表れたメロディーが生まれます。ただし、読む度に違うメロディーにならないように気をつけましょう。

Q 4 登場人物になりきって、声色を変えて読んだ方がいいですか？

- A 声色を大げさに変える、表情を作るなど、表現がオーバーになりすぎないように注意して読みましょう。また、演じているのではないので、身振りや手振りなども加えない方がよいです。読み手ではなく、本に注目を集め、子どもたちが本の世界を楽しめるように読みましょう。登場人物が多い場合は、声の大きさや高さ、速さなどを少し変えて会話文を読むことで区別します。

Q 5 読もうとすると「その本知ってる！」と言われました。どうしたらよいですか？

- A 子どもたちは、お話を繰り返し聞くのが好きです。知っているから聞きたくないのではなく、多くの場合は、ただ知っているということを伝えたいのです。皆と一緒に読み聞かせを聞くことで、つられて声を出したり、顔を見合わせて笑ったりと、体験を共有することができますし、一人で読んだ時や、初めて聞いた時には気づかなかった、新しい発見もできます。

「知らないお友達もいるから聞いてみよう」などと声をかけて、読み始めましょう。



4 おすすめの絵本

★動物の絵本



3歳～

『ぐりとぐら』

中川李枝子／さく 大村百合子／え
福音館書店 1967年

野ねずみのぐりとぐらは、森で大きな卵を見つけます。2匹は相談して、カステラを作ることになりました。ふっくらおいしそうに出来上がったカステラを、森の動物たちと一緒に食べます。「ぼくらのなまえはぐりとぐら」と、元気よく歌ってみましょう。



4・5歳～

『こすずめのぼうけん』

ルース・エインズワース／さく いいももこ／やく
ほりうちせいichi／え 福音館書店 1977年

こすずめは、お母さんに初めて飛び方を教わります。楽しく飛ぶうちに飛びすぎてしまい、どこかで休ませてもらおうと他の鳥の巣に寄りますが、鳴き声が違うので中に入れてもらえません。疲れ切ったこすずめはどうなってしまうのでしょうか。鳥たちの声の違いを楽しんでみてください。



4・5歳～

『11ぴきのねこ』

馬場のぼる／著 こぐま社 1967年

「大きな魚が食べたい！」と、11ぴきのねこは海のように広い遠くの湖に向かいます。現れた大きな魚に飛びかかっても全く歯が立たなかったため、ねこたちは作戦を考えたり、体を鍛えて魚を捕まえようと協力します。

11ぴきのねこたちのユニークな表情にも注目です。



3歳～

『ぞうくんのさんぽ』

なかのひろたか／さく・え なかのまさたか／レタリング
福音館書店 1977年

力持ちのぞうくんが、かばくん、わにくん、かめくを順番に背中に乗せてお散歩へでかけます。だんだん重くなり、「うわーっ」「どっぽーん」と池の中に落ちてしまいます。水の中でもごきげんなぞうくんたちに、思わず笑顔がこぼれます。



4・5歳～

『どろんこハリー』

ジーン・ジオン／ぶん マーガレット・プロイ・グレアム／え
わたなべしげお／やく 福音館書店 1964年

お風呂に入るのが大嫌いな犬のハリーは、お湯の音が聞こえるとブラシをくわえて裏庭に埋めます。外で遊んで、泥やすすだらけのハリーは家に着いても自分だとわかってもらえません。家族に気づいてもらうため一生懸命がんばるハリーを応援したくなります。



3歳～

『はらぺこあおむし』

エリック＝カール／さく もりひさし／やく
偕成社 1989年

小さなあおむしは、いつもお腹がぺこぺこでした。日ごとに食べる量や種類も増え、やがてさなぎから美しい蝶になります。ページをめくると、次々とあらわれる色鮮やかな食べ物の絵に、あおむしの食べあとのような丸い穴が空いています。楽しいしかけのある絵本です。

★生活・言葉の絵本



4・5歳～

『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』

バージニア・リー・パートン／ぶん・え
むらおかはなこ／やく 福音館書店 1961年

ある日突然逃げ出した、小さな機関車のちゅうちゅう。踏み切り、はね橋、操車場を猛スピードで駆け抜けて、町中が大混乱！止まらなくなってしまったちゅうちゅうを機関士たちが必死に追いかけます。迫力のある絵とスリル満点の展開に引き込まれます。



4・5歳～

『きょだいなきょだい』

長谷川摂子／作 降矢なな／絵 福音館書店 1994年

「あったとさ あったとさ」で始まる楽しいリズムの絵本です。広い野原の真ん中に、ピアノ、せっけん、電話、トイレットペーパーなど、身近なものが巨大になって現れます。そこへ100人の子どもがやってきて遊びます。次は何が出てくるのか、ワクワクする一冊です。



3歳～

『ティッチ』

パット・ハッチンス／さく・え いいものもこ／やく
福音館書店 1975年

ティッチは小さな男の子です。兄さんや姉さんの持っている自転車や風や楽器は、ティッチのものより大きいので、いつも少し不満顔です。あるとき、ティッチの持っていた小さな種を植えると、ぐんぐん育てて三人の背丈より大きくなりました。ティッチの得意気な表情に注目です。



3歳～

『どうすればいいのかな?』

わたなべしげお／ぶん おおともやすお／え
福音館書店 1980年

「シャツを はいたら どうなる?」と、試しにシャツを足からはいてみるくまくん。どうもしっくりしない様子。じゃあパンツや帽子やくつはどうするものかな?ちゃんと着て、ちゃんとかぶって、ちゃんとはいて、さあ、気分よくおでかけしましょう。

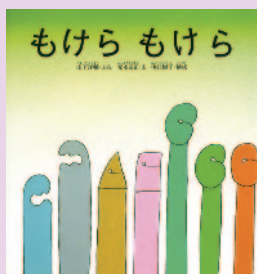


4・5歳～

『はじめてのおつかい』

筒井頼子／さく 林明子／え 福音館書店 1977年

ある日、みいちゃんはママにおつかいを頼まれます。初めてのおつかいは、自転車にどきんとしたり、坂道で転んでしまったりと困難ばかり。無事におつかいを済ませることができのでしょうか。町や人々の様子、みいちゃんの心の揺れや表情が丁寧に描かれています。



3歳～

『もけらもけら』

山下洋輔／ぶん 元永定正／え 中辻悦子／構成
福音館書店 1990年

ジャズピアニストの山下洋輔とモダンアートの元永定正による絵本です。「もけらもけら」「でけでけ」「だばたどばた」など、へんてこな言葉のリズムを楽しみながら、繰り返し読んでみましょう。言葉と形、色が織りなす世界が音楽のように広がります。

★不思議・冒険の絵本



4・5歳～

『くまのコールテンくん』

ドン＝フリーマン／さく まつおかきょうこ／やく
偕成社 1975年

デパートのおもちゃ売り場に並べられた、くまのコールテンくん。ズボンのボタンが取れていたせいで、女の子に買ってもらえませんでした。がっかりしたコールテンくんは、ボタンを探しに夜の店内を歩き回ります。ぬいぐるみのくまの冒険と、心優しい女の子との出会いが愛らしく描かれています。



3歳～

『ふしぎなナイフ』

中村牧江、林健造／さく 福田隆義／え
福音館書店 1997年

ナイフは固いはずなのに、この本のナイフは曲がったり、ねじれたり、切れたりと思議な形に変化します。そんなナイフが伸びて、縮んで、ふくらんで最後には……。おはなし会でも大人気で、子どもたちの「えーっ」という声が響きます。



4・5歳～

『もりのなか』

マリー・ホール・エッツ／ぶん・え まさきりこ／やく
福音館書店 1963年

男の子が森へ散歩に出かけると、ライオンやゾウ、クマたちが次々についてきて賑やかな行列ができます。そして、かくれんぼをして遊んでいると、突然動物たちがいなくなり、目の前には男の子を迎えにきたお父さんが現れます。森の中の不思議なできごとを描いた絵本です。



4・5歳～

『よかったね ネットくん』

レミー・シャーリップ／さく やぎたよしこ／やく
偕成社 1997年

びっくりパーティーに招待されたネットくんですが、会場は遠いフロリダでした。「たいへん！」と思ったら友だちが飛行機を貸してくれたので「よかった!」、途中で飛行機が爆発して「たいへん!」、でもパラシュートがあって「よかった!」と、次々と起こるピンチを幸運で乗り切るネットくんの冒険にハラハラドキドキします。



4・5歳～

『わゴムはどのくらいのびるかしら?』

マイク・サーラー／ぶん ジェリー・ジョイナー／え
きしだえりこ／やく ほるぷ出版 2000年

坊やが、わゴムのはしをベッドの枠に引っかけて、どのくらい伸びるか試します。坊やは、わゴムを持ったまま汽車、飛行機などを乗り継いで、とうとうよその国まで行きます。さらに伸びるわゴムと一緒に、坊やはどこまで行くのでしょうか。そして目いっぱい伸びたときには?最後まで目が離せません。



3歳～

『わたしのワンピース』

にしまきかよ／えとぶん こぐま社 1969年

うさぎは空から落ちてきた真っ白な布でワンピースを作りました。それを着てお花畑をお散歩するとワンピースが花模様に、雨が降ってくると水玉模様になります。こんなワンピースがあったら素敵ですね! 「ララン ロロン」という言葉のリズムに心が弾みます。

★昔ばなしの絵本



3歳～

『おおきなかぶ』

A. トルストイ／再話 内田莉莎子／訳
佐藤忠良／画 福音館書店 1966年

おじいさんがかぶを植えると、とてつもなく大きなかぶができました。おじいさんはかぶを抜こうとしますが、一人では抜けません。おばあさんや孫を呼んできて「うんとこしょ、どっこいしょ」。おおきなかぶは抜けるのでしょうか？繰り返しのリズムで遊んでみましょう。



3歳～

『三びきのやぎのからがらどん』

マーシャ・ブラウン／え せたていじ／やく
福音館書店 1965年

からがらどんという名前のやぎが3匹いました。草を食べて大きくなるために、そろって山の草場へ向かいます。まず、谷川の橋を渡ったのは小さいやぎのからがらどんです。そこに出てきたのは気味の悪い鬼のようなトルロでした。大きいからがらどんとトルロが戦う場面が迫力のある絵で描かれています。



4・5歳～

『ずい-ton-san』

日野十成／再話 斎藤隆夫／絵 福音館書店 2005年

小坊主のずい-ton-sanがお寺の本堂で居眠りしていると、「ずーいとん」と呼ぶ声がします。きつねのいたずらと分かりこらしめようとしますが、きつねは本堂に逃げこんで、なんと御本尊様に化けてしまいます。小坊主ときつねの知恵比べ、さて、どちらが勝つでしょう？



4・5歳～

『だいくとおにろく』

松居直／再話 赤羽末吉／画 福音館書店 1967年

村の大工は、流れの速い川に橋を架けることになります。鬼が大工の代わりに、橋を完成させますが、鬼は大工に目玉をよこせと言います。大工が渋ると、鬼は自分の名前を当てれば許すと条件を出します。大工の運命はどうなるのでしょうか。大工と鬼の掛け合いが楽しい昔話です。



4・5歳～

『てぶくろ』

エウゲーニー・M・ラチョフ／え うちだりさこ／やく 福音館書店 1965年

森でおじいさんが落とした手袋に、ねずみやかえるなどが次々と入ります。「だれだい、てぶくろにすんでいるのは?」「くいしんぼねずみとぴょんぴょんがえる」手袋の中の動物たちがどんどん増えてくると、もう入りきらない! という子どもたちの声が聞こえてきそうです。



4・5歳～

『ももたろう』

まつただし／ぶん あかばすえきち／え 福音館書店 1965年

おばあさんが川で洗濯をしていると、川上から桃が流れてきました。おばあさんが桃を割ろうとすると、中からかわいい男の子が生まれます。「ももたろう」と名付けられた男の子は、やがて鬼退治に行くことになります。日本の昔話が、力強い絵と文で蘇ります。

★その他のおすすめの絵本

『あおくんときいろちゃん』【3歳～】

レオ・レオーニ／作 藤田圭雄／訳 至光社 1967年

『うまかたやまんば』【4・5歳～】

おざわとしお／再話 赤羽末吉／画 福音館書店 1988年

『おおかみと七ひきのこやぎ』【4・5歳～】

グリム／作 フェリクス・ホフマン／え せたていじ／やく 福音館書店 1967年

『おちゃのじかんにきたとら』【4・5歳～】

ジュディス・カー／作 晴海耕平／訳 童話館出版 1994年

『おふろだいすき』【4・5歳～】

松岡享子／作 林明子／絵 福音館書店 1982年

『おまたせクッキー』【4・5歳～】

パット＝ハッチンス／さく 乾侑美子／やく 偕成社 1987年

『かいじゅうたちのいるところ』【4・5歳～】

モーリス・センダック／さく じんぐうてるお／やく 富山房 1975年

『かさじぞう』【4・5歳～】

瀬田貞二／再話 赤羽末吉／画 福音館書店 1966年

『かばくん』【3歳～】

岸田衿子／さく 中谷千代子／え 福音館書店 1966年

『キャベツくん』【4・5歳～】

長新太／文・絵 文研出版 1980年

『ぐるんぱのようちえん』【4・5歳～】

西内ミナミ／さく 堀内誠一／え 福音館書店 1966年

『こねこのぴっち』【4・5歳～】

ハンス・フィッシャー／文・絵 石井桃子／訳 岩波書店 1987年

『14ひきのおつきみ』【4・5歳～】

いわむらかずお／さく 童心社 1988年

『しょうぼうじどうしゃじぶた』【4・5歳〜】

渡辺茂男／さく 山本忠敬／え 福音館書店 1966 年

『ジルベルトとかぜ』【4・5歳〜】

マリー・ホール・エッツ／作 たなべいすず／やく 富山房 1975 年

『すてきな三にんぐみ』【4・5歳〜】

トミー＝アンゲラー／さく いまえよしとも／やく 偕成社 1977 年

『そらいろのたね』【3歳〜】

中川李枝子／さく 大村百合子／え 福音館書店 1979 年

『ターちゃんとペリカン』【4・5歳〜】

ドン・フリーマン／さく さいおんじさちこ／やく ほるぷ出版 1975 年

『だるまちゃんとてんぐちゃん』【4・5歳〜】

加古里子／さく・え 福音館書店 1967 年

『でんしゃにのって』【3歳〜】

とよたかずひこ／著 アリス館 1997 年

『ねえ、どれがいい？』【4・5歳〜】

ジョン・バーニンガム／さく まつかわまゆみ／やく 評論社 2010 年

『ピーターのいす』【3歳〜】

エズラ＝ジャック＝キーツ／さく きじまはじめ／やく 偕成社 1977 年

『めっきらもっきらどおんどん』【4・5歳〜】

長谷川摂子／作 ふりやなな／画 福音館書店 1990 年

『やさいのおなか』【3歳〜】

きうちかつ／さく・え 福音館書店 1997 年

『ラチとらいおん』【4・5歳〜】

マレーク・ペロニカ／ぶん・え とくながやすもと／やく 福音館書店 1965 年

『わにわにのおふろ』【3歳〜】

小風さち／ぶん 山口マオ／え 福音館書店 2004 年

5 わらべうた

おはなし会の導入やつなぎなどに、わらべうたや手遊び歌をいれると、子どもたちはリラックスしたり、次のお話を聞く切り替えができます。

♪ねずみねずみ（3歳から）

二人一組になって向かい合います。一人が片手で相手の手を取り、自分のもう一方の手の人さし指と中指を歩くようにして、相手の手首から腕に向かって動かします。

①ねずみ ねずみ どこ いきゃ？

わがすへ チュッチュクチュ

（手首から肘まで歩かせます）



②ねずみ ねずみ どこ いきゃ？

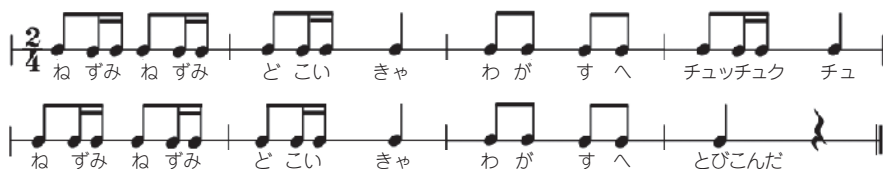
わがすへ

（肘から肩のほうへ歩かせます）



③とびこんだ！

（脇をくすぐる）



♪ちゃちゃつぼ（5歳から）

歌いながら左手で茶壺をつくって「ふた」と「そこ」を右手で交互につくり、次に右手で茶壺をつくって「ふた」と「そこ」を左手でつくります。

この繰り返しで、♪ふたがない の「ない」のところでは「そこ」の状態に、最後の ♪ふたにしろ の「しろ」のところで「ふた」をするかたちになったら大成功！

難しい時は、左手で壺をつくって、右手で「ふた」と「そこ」を交互につくるだけでもよいです。



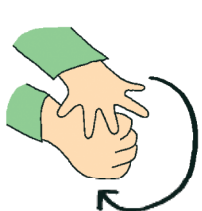
ちゃ

- ①左手をにぎってその上に
右手のひらで「ふた」



ちゃ

- ②その右手を左手の下に
置いて「そこ」



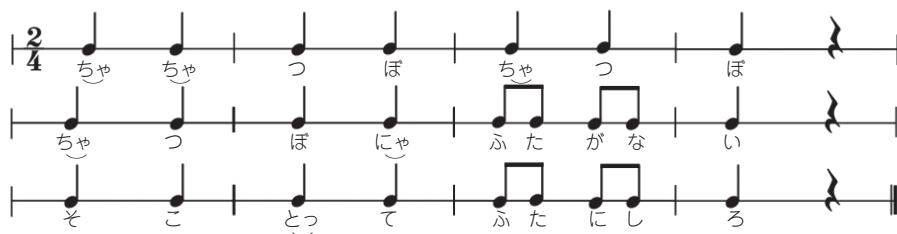
つ

- ③右手をにぎってその上に
左手のひらで「ふた」



ぼ

- ④その左手を下にして「そこ」
→①に戻る



6 参考図書

幼児向けの読み聞かせやおはなし会の実践、絵本の選び方などに役立つ図書をご紹介します。

読み聞かせやおはなし会、絵本選びの本

『いきいき読書ボランティア・ガイドブック』

親子読書地域文庫全国連絡会／編集 親子読書地域文庫全国連絡会 2006 年

『えほんのせかいこどものせかい』

松岡享子／著 日本エディタースクール出版部 1987 年

『絵本でひろがる子どものえがお 発達にそった年齢別読み聞かせ』

高山智津子、徳永満理／著 チャイルド本社 2004 年

『絵本の庭へ』

東京子ども図書館／編 東京子ども図書館 2012 年

『おはなし会プログラム 季節別年齢別厳選プログラム 116 本収録』

「この本読んで！」編集部／編集 読書サポート 2008 年

『子どもがよろこぶ！読み聞かせ絵本 101 冊ガイド』

すぐに役立つ読み聞かせの情報も満載』

西本鶏介／著 講談社 2003 年

『0～5歳子どもを育てる「読み聞かせ」実践ガイド』

よくわかる！絵本の選び方・読み方』

児玉ひろ美／著 小学館 2016 年

『全国訪問おはなし隊絵本の読み聞かせガイドブック』

講談社／編 講談社 2014 年

『読書ボランティア活動ガイドー

どうする？スキルアップどうなる？これからのボランティア』

広瀬恒子／著 一声社 2008 年

『よくわかる0～5歳児の絵本読み聞かせ』

徳永満理／著 チャイルド本社 2013 年

『読み聞かせわくわくハンドブック 家庭から学校まで』

代田知子／著 一声社 2001 年

わらべうたの本

『子どもとお母さんのあそびうたえほん』

小林衛己子／編 大島妙子／絵 のら書店 2000 年

『にほんのわらべうた』 1～4

近藤信子、柳生弦一郎／著 福音館書店 2001 年

『乳幼児おはなし会とわらべうた』

落合美知子／著 児童図書館研究会 2017 年

『目あそび・手あそび・足あそび なにしてあそぶ？わらべうた』

佐藤美代子／編著 近藤理恵／絵 草土文化 2001 年

『わらべうたと子ども』

木村はるみ／著 蔵田知子／著 古今社 2001 年



発 行 日 平成 30 年 2 月 15 日

編集・発行 山梨県立図書館

YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY

〒400-0024

甲府市北口2丁目8-1

T E L 055-255-1040

F A X 055-255-1042

U R L <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

この冊子に関するお問い合わせ先

山梨県子ども読書支援センター（山梨県立図書館内）

*当館ホームページからもこの冊子を見ることができます。

*この冊子は個人的な目的に使用する以外で複写・転載することはお控えください。